

学校だより

2024年

11月から12月までの資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

●11月15日 計算技術検定

●12月14日 危険物取扱検定

1年生が社史見学を実施

日立の歴史を学ぶ

10月15日、好天のもと社史見学会を実施した。今年度も日立オリジンパーク・熊野神社・日鉱記念館を2班に分かれて見学した。オリジンパークでは班毎に、案内者をつけてご対応をいただいた。また、熊野神社では神社説明、参拝の作法に加え、全員に御札まで授けていた



社史見学(日立オリジンパーク)

だき、大変心に残る参拝となった。

今回も各見学場所でクイズが出題されたため、みな100点満点をめざし興味を持って見学に臨んでいた。加えて事前学習した日立100問100答の言葉が各所で現れ、実地でそれらを確認することで、確実に社史を身につけることができた。今後、社史見学会を日立製作所と日専校の歴史を实地で学べる貴重な機会と位置づけ継続実施していく。

1年生が日立ビルシステム水戸事業所を見学



事業所見学(HBS 水戸事業所)

今回、日立ビルシステム水戸事業所様にご協力いただき、事業所見学をすることができた。業務多忙の中、10月21日から3日間(クラスごと)に渡り、本校生の見学を受け入れてくださった事業所の皆様に御礼申し上げます。この見学は、来年度2年次からの科分けに関するキャリア教育

育として位置づけており、「実際に製造現場を見学することで、将来の自分像を持たせること」「自分のキャリアを考えさせ、科選択につなげていけるようにすること」を目的としている。電気・機械・溶接の各現場を見学させていただき、生徒は将来の働くイメージが構築できたようである。以下、生徒が作成した報告書の感想を掲載させていただく。

・職場の空気を直に自分の目で見る
ことができ、どのような感じなのか分かり、今後の進路選択の参考になった。

・自分も早く日立グループの一員として人々の役に立てるようになりたいと思った。実習や勉強、部活を通して人間力向上に励んでいきたい。
・安全にも力を入れていることが、実際に見て学ぶことができた。また、働いている方々は安全をしっかりと守って作業されていることが、大変良く分かった。

・どの製品においても、必ず試験を行って安全に使用できるか確認してから出荷していることを知り、自分たちが製品を安全に使えることへの喜びを感じた。また、お客様の気持ちを考え、安全で便利な良い製品の製造に関わりたかった。

考動アクション委員会報告

2年電気科 菅野 昂流

この度、日専校のリーダーとして



考動アクション委員長を務めることになりました、菅野昂流です。学校

のチームリーダーは生徒全員を導くことが大切で、そうした仕事ができる嬉しさがある反面、不安や任せられる責任感で身が引き締まる思いです。しかし、それに打ち勝つことで真のリーダーとなり、充実感や達成感を得られるように頑張りたいと思います。



考動アクション委員会

今年度の生徒スローガンは「すべてにおいてトップレベルの人財になる生徒」です。このスローガンは工場でも活躍できる人財になるために立てました。「トップレベルの人財」とは、会社・工場が求めている、人間力・技能技術力・即戦力が高い人材のことです。そうなるためには、生徒一人ひとりが、自主的に行動す

ること、向上心をもって行動すること、リーダーシップやフオロワースキップの力をつけることで達成できると考えています。

リーダーとしての活動目標は主に3つあります。1つ目は生徒が成長するための土台づくりをします。その土台から個々の自己成長を築いてもらいます。2つ目は模範となつて行動することです。自分たちリーダーが模範となることで、個々の課題を見つけて、改善、対策する力を身に付けてもらいたいと思います。3つ目は相互指摘の意識向上です。生徒間で指摘し合うことにより、マナーやモラルの向上、気づき力を付けることができると思っています。

次に主な活動内容です。まず、考動アクション委員会の3つの内部組織である、学校委員会、寮委員会、部活動委員会の各委員長と話し合いを行い、各活動内容の共有、他委員会からの意見収集を行います。そしてそれを縦方向に展開します。例えば、学校委員会では、委員会から各クラスへアドバイスをを行い、クラス活動の改善をサポートします。部活動委員会では、各部長と話し合いを行い、部活動の問題点を共有して、改善案を作成してもらいます。そうした活動を全校集会の場で発表することで、生徒全員が成長する機会を作ろうと思っています。自分に直接

(8頁へ続く)

(7頁の続き)

関係することだけではなく、様々な取り組みを知り、見識を広げて、気付き能力を高めていきたいと思っています。私自身としては、リーダーという自覚を日頃から意識をして生活をしていき、日専校の生徒全員と一緒に成長していけるようにしていきたいです。また、考動アクション委員のメンバーと共に、時間をかけ学校を更により良いものにしていきたいです。そのためにも、「自分から」「自分たちから」という意識で物事を展開していき、生徒たちを良い方向に導いていけるそんな存在になれるように頑張りたいと思います。

技能五輪全国大会

電気溶接職種出場

11月22日から25日までの4日間、第62回技能五輪全国大会（電気溶接職種）に3年溶接科の益山松選手が茨城県代表として出場した。千葉市の高度ポリテクセンタで競技が行われ、各都道府県の予選を勝ち抜いた社会人選手と肩を並べての大会出場である。競技本番では、普段から感情を表に出すタイプでない選手だが、緊張している様子もなく、穏やかな表情で競技開始を迎えた。競技が始まると今までに見せたことが無い素早い動作で作業をする姿を見て、逆に何かミスをするのではないかとハラハラして見守っていた。やるべき作業を外した箇所についても、作業

を進める中で本人が気付く、課題判定に影響が出るようなミスにはならなかった。競技が進むにつれ落ち着きを取り戻し、今まで行ってきた訓練の成果を出して課題を製作し、時間内に課題を無事に提出した。競技終了後に本人に確認すると、「作業開始後にどんな状況だったのか思い出せない」「日ごろの訓練の大切さが分かりました」と話してくれた。

技能五輪全国大会出場を通して、技能成熟の難しさなど多くの学びを得る機会になったと思う。

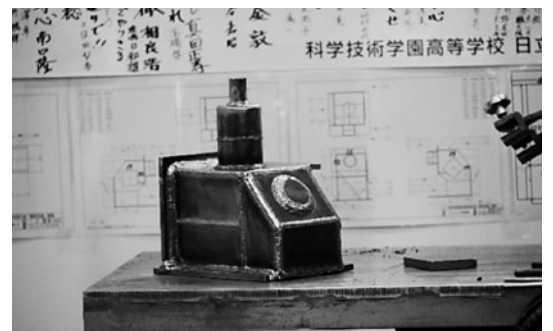
3年溶接科 益山 松



第62回技能五輪全国大会（電気溶接職種）に出場した3年溶接科の益山松です。この度、全国大会への出場を果たすことができたのは、これまで日々の訓練で指導いただいた



競技中の益山選手



競技課題の圧力容器

湯ノ口先生、金澤先生をはじめ、多くの方々のサポートのお陰であり、感謝の気持ちでいっぱいです。また、大会前には先生方や友人からたくさん励ましの言葉をいただき、ありがとうございました。全国大会では、訓練以上のことはできないということとを学び、日々の訓練の大切さを再認識しました。閉会式では先輩方の嬉しそうな顔や悔しそうな顔を間近で見、これから自分が挑戦しようとしている勝負の世界を改めて実感しました。また、私にとって、これまでの日々の訓練、県大会や全国大会への出場は、貴重な時間であり財産です。この経験を今後の会社生活に活かしていきたいです。

2025年度生の入学試験

本校含む4会場で実施

12月4日、5日の両日、2025

年度生の入学試験を本校及びつくば市、青森市、下松市（山口県）の4会場で実施した。近年、少子化の影響が顕著に現れ、近隣の県立高校では定員割れする学校も多く、受験生の確保に苦労している。日専校では優秀な人材を確保すべく、従業員向けの説明会の開催、小・中学生を対象とした出前授業を実施するなど幅広くPR活動を展開している。また、今年度は下松市に加えて新たに、青森市、弘前市、八戸市でも学校説明会を開催した。更にメディア（青森放送、青森朝日放送）を活用した広報活動も展開。その結果、昨年度を上回る受験生を確保することができたが、今後も生徒募集活動において苦戦が予想される。同窓会員の皆様には、引き続きお知り合いの方々に日専校の紹介をお願いしたい。



入学試験(本校)

技能五輪交流会を開催

8事業所が来校



技能五輪交流会

12月13日、技能五輪で活躍できる選手の育成を目的とし、2年生55名を対象とした第1回技能五輪交流会を開催した。当日は、グローバル人材開発部石川担当部長をはじめ、日立グループで技能五輪に出場している8事業所から、全社や事業所の技能五輪事務局や選手の指導員19名の皆さんが来校され、事業所の概要、技能五輪職種、指導体制、訓練内容等について説明いただいた。質疑応答の時間では、生徒から多くの質問が出され、それぞれに対して丁寧に回答いただいた。生徒は技能五輪だけでなく、就職予定先の事業所についても理解を深めることができ、大変有意義な時間となった。